



ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成 30 (2018) 年

5月19日発行

第4号

夢のふくらむ学校

本校では、L I 校にバーンズ亀山静子先生、W校に西尾尚子先生のお二人のスクールカウンセラーを配置しています。今号は、バーンズ亀山静子先生に寄稿していただきました。

スクール・カウンセラー便り

新しい教科書を持って帰ってきました。
さて、親御さんのすることは？



バーンズ亀山静子先生

新しい学年が始まりました。お子さんが新しい教科書を持ち帰ってきたと思います。

さて、親御さんは何をしたらいいでしょうか？

「名前を書くこと」？——ブブー！違います。

答えは、「親がまず教科書に目を通す」です。これにはふたつ、良い理由があります。まず、我が子がどんなことを学んでいくのか、親が把握しておけるということです。

もうひとつは、教科書の内容の中で、お子さんにとって体験的に欠落していることはないか、確認できるということです。ある学年の国語で、いつも食べている野菜は、植物として何の器官なのか学習する単元がありました。その中で「ダイコンおろし」に辛いのと甘いのがあることに言及されていたのですが、授業中の子どもたちの反応があまりよくありません。そこで先生が「君たち、ダイコンおろしてなんだか知っているよね？」と聞くと、一斉に「知らな〜い」。これでは授業もわかりませんね。

お子さんがどんな体験を欠いているかは親御さんがいちばんよくご存知です。親御さんが前もって教科書を読んでいけば、「あ、うちの子、これは知らないな」とわかりますし、それを家で体験したり、説明したりして、前もって補っておくことができます。そうすると、授業中、それが出てきたときに「ふむふむ、これは家でお母さんとやったやつだな」と関連付けることができますし、それによって理解も増し、授業への取り組みもよくなるわけです。(逆に、前もって補足がないと授業中はわからないまま時間を過ごし、家に帰って親御さんと宿題をする段になって初めて説明を受ける、ということになり、授業中の時間ももたない時間になってしまいます。実は、授業中の態度が悪いというような問題もこんなことが起因していることが多くありますよ。)

先生の代わりに授業をしてしまう必要はありません。新しい単元に入る前に、このようにお子さんを準備しておくだけで、お子さんの授業理解が格段に変わるということをぜひ覚えておいてください。

子どもたちが、新しい学年で抱負を実現できるように、みんなでお手伝いしていけるといいですね！困ったこと、気になることがあったらどうぞ気軽にご相談ください。

授業参観と懇談会を通して、信頼関係を深めたいと思います。

L校



手を上げて発表しています。



懇談会の間、手話と点字の学習をする子どもたち。

懇談会の風景



W校



風にそよぐ
鯉のぼり



みんなの前で発表しています。



懇談会の風景



懇談会の間、歯科衛生について学ぶ子どもたち。

読み聞かせや人形劇を楽しむ子どもたち。

